2010 年版用

第 14 回
（平成 26 年 8 月）

ＣＡＳＢＥＥ戸建評価員試験
問　　題

次の注意事項をよく読んでから、解答を始めてください。

［注意事項］

１．この試験は、CASBEE 戸建 - 新築マニュアル（2010 年版）及び CASBEE 戸建 - 既存マニュアル（2011 年版）の内容に基づくものです。
２．試験時間は、１４時００分から１６時００分までの２時間です。
３．問題は表紙を除いて１６ページあります。この他に解答用紙が１枚あります。
４．解答用紙に、氏名、生年月日（西暦）、受験番号（マーク欄にも記入）、試験会場名を記入してください。
５．各問題につき１つの解答を選んでください。複数選択した場合は不正解となります。
６．総合問題を除き、問題は分野ごとに分かれていますが、選択肢の全てがその分野に含まれる内容とは限りません。
７．この問題冊子への書き込みは差し支えありません。

一般財団法人 建築環境・省エネルギー機構（IBEC）

※本試験問題の無断転載、複製、営利目的使用は禁じられています。

＜総合問題＞

問題1　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「すまいの環境効率ＢＥＥ$_{H}$」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 戸建住宅は「すまいの環境効率ＢＥＥ$_{H}$」の値の大小に応じて、「Ｓランク（赤★★★★★）」、「Ａランク（赤★★★★）」、「Ｂ$^{+}$ランク（赤★★★）」、「Ｂ$^{-}$ランク（赤★★）」、「Ｃランク（赤★）」の５段階にランク付けされる。

2 「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」と「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」については、それぞれに採点・集計を行い、最終的に１００点満点の点数に変換される。

3 「すまいの環境負荷低減性ＬＲ$_{H}$」は、「ＬＲ$_{H}$１　エネルギーと水を大切に使う」、「ＬＲ$_{H}$２資源を大切に使いゴミを減らす」および「ＬＲ$_{H}$３　地球・地域・周辺環境に配慮する」の３つの分野で評価を行う。

4 「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」と「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」の評価対象範囲の区分は、建物の外壁である。

5 環境負荷（Ｌ$_{H}$)を半分にして、環境品質（Ｑ$_{H}$)を２倍にすると、ＢＥＥ$_{H}$は４倍になる。

問題2　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「すまいの環境効率ＢＥＥ$_{H}$」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」８２点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」４８点の場合、ランクは「Ａランク（赤★★★★）」である。

2 「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」７４点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」２３点の場合、ランクは「Ｓランク（赤★★★★★）」である。

3 「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」５８点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」６８点の場合、ランクは「Ｂ$^{-}$ランク（赤★★）」である。

4 「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」４２点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」１８点の場合、ランクは「Ｂ$^{+}$ランク（赤★★★）」である。

5 「すまいの環境品質Ｑ$_{H}$」３４点、「すまいの環境負荷Ｌ$_{H}$」７８点の場合、ランクは「Ｃランク（赤★）」である。

問題3　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「低炭素化性能評価」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 評価対象住宅の低炭素化性能は、参照値に対するライフサイクルＣＯ$_{2}$排出量の排出率の大小に応じて５段階にランク付けされる。

2 温暖化影響チャートにおける「建築物の取組み」とは、建物の長寿命化や省エネルギーへの配慮など、評価対象住宅の建築物での取組みによる効果をさす。

3 温暖化影響チャートにおける「オンサイト手法」とは、敷地内における取組みのうち太陽光発電などの取組みの効果をさす。

4 温暖化影響チャートにおける「オフサイト手法」とは、グリーン電力証書の取得など、敷地外で実施される取組みによる効果をさす。

5 ライフサイクルＣＯ$_{2}$を「戸建独自計算」に基づいて計算した場合は、その結果がＢＥＥ$_{H}$に反映される。

問題4　「ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築の使い方」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 施主・設計者・施工者などのコミュニケーションツールとしての活用が考えられる。

2 ユーザーとして、施主や住宅購入者、住宅設計者や住宅供給者、自治体、ＮＰＯ団体、金融機関などを想定している。

3 評価結果を不特定多数の第三者に提示する場合は、評価結果に加えて、「敷地、家族構成、使われ方、外構などを想定したものである」などの但し書きを付けることとする。

4 建設後の住宅の環境性能評価には適しているが、設計途中の住宅の環境性能確認には適していない。

5 環境性能を分かりやすく伝える、環境ラベリングツールとしての活用が考えられる。

問題5　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「ソフトウェアを利用した評価の方法」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 「メイン」シートの「１）概要入力」では、プランや仕様が決まっていない段階であれば、「予定」や「仮」、「一部確定」を選択する。

2 「配慮」シートには、設計上の配慮や取組みを大項目ごとに具体的に記入し、「総合」欄には建物全体に関する総合的なコンセプトを記入する。

3 「採点Ｑ１」～「採点ＬＲ３」シートでは、「対象外」を選択すると、その項目の重みは「０」となり、同位の他の項目に均等に配分される。

4 「電気排出係数」シートでは、「メイン」シートで選択した電力会社の電気のCO_2排出係数を確認できるほか、特定の排出係数を使用する場合の入力欄もある。

5 「CO_2独自計算」シートは、「メイン」シートで温暖化影響チャートの計算タイプを「戸建独自計算」とした場合に入力する。

問題6　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「採点基準の見方」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 「評価内容」欄には、「何をどのような基準、あるいは考え方で評価しているか」が記載されている。

2 「評価レベル」欄には、最大５段階のレベルと、対応する採点基準が示され、（該当するレベルなし）と記載されているレベルは無いものとして扱う。

3 「加点条件の有無」欄には、「評価レベル」欄の採点基準による評価の後、ある条件に基づく追加の取組みによりレベルをあげる仕組みの有無が記載されている。

4 「条件によるレベル変更」欄には、施主の意向等に基づき評価者が独自に設定した条件でレベルを変更する仕組みの有無が記載されている。

5 「評価対象外」欄には、立地上の制限や建築基準法の規制条件等により、その項目の評価を行わないで採点することができる場合の条件が記載されている。

問題7　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築におけるライフサイクルCO_2の「計算条件」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築では、CO_2の単位として、年・床面積当りの排出量（ｋｇ-CO_2/年m^2）ではなく、ライフサイクルの総量を用いている。

2　「建設」の計算では、標準モデル住宅のプランについて、木造、鉄骨造、鉄筋コンクリート造のそれぞれに一般的な仕様を設定し、部材拾いを行った結果を用いている。

3　「修繕」の計算では、全ての部材についてそれぞれの製造段階のCO_2排出量に修繕率を乗じた値を積算している。

4　「更新」の計算では、各部材の耐用年数を設定し、建物寿命を３０年、６０年、９０年とした場合の、それぞれの部材の交換周期を求めている。

5　「解体」の計算では、全構成部材が解体材として発生し、処理施設まで４ｔトラックで３０ｋｍ輸送されると想定した時の燃料消費に伴うCO_2排出量を計算している。

問題8　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存における「評価の基本的な考え方」について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　評価対象には、新築・改修時の部材製造段階における省資源等の過去の取組みは含まない。

2　評価対象について、現状確認を行ったうえで評価することを原則とする。

3　評価する設備機器の動作確認を行った際に、著しい劣化が認められる場合は、最低レベルとして評価する。

4　実際のエネルギー消費量など、居住した結果の実績では評価せず、評価時点における設備等の性能について評価する。

5　採点のレベル設定においては、現在建設される一般的な戸建住宅がレベル３となるようにしている。

問題9　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存におけるライフサイクルCO_2の「戸建標準計算」について、以下の条件の場合の「木造の「修繕・更新・解体」のCO_2排出量」として最も適当なものはどれか。

※条件
・Q_H２．１．１　躯体（新築時の想定耐用年数）：６０年
・Q_H２．１．２　外壁（採用時の想定耐用年数）：３０年
・Q_H２．１．３　屋根（採用時の想定耐用年数）：１５年
・Q_H２．２．２　維持管理の計画・体制　：レベル４

1　５．０８４　ｋｇ-CO_2/年m^2

2　５．６２８　ｋｇ-CO_2/年m^2

3　５．８９５　ｋｇ-CO_2/年m^2

4　６．４３１　ｋｇ-CO_2/年m^2

5　６．８８６　ｋｇ-CO_2/年m^2

＜Q_H1 室内環境を快適・健康・安心にする＞

問題10　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「断熱性能の確保」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「Q_H１．１．１．１断熱性能の確保」の評価基準は、「LR_H１．１．１建物の熱負荷抑制」と同じである。

2　レベル１から４までは、断熱地域区分ごとに定められた、年間暖冷房負荷、熱損失係数等、熱貫流率等のいずれかの基準で評価する。

3　地域区分Ⅴに建つ住宅について、熱損失係数が２．０W/（m^2・K）であったので、レベル５と判断した。

4　地域区分Ⅵに建つ住宅について、熱損失係数が３．５W/（m^2・K）で、夏期日射侵入率（面積加重平均値）が０．４であったので、レベル５と判断した。

5　日本住宅性能表示基準「５－１省エネルギー対策等級」において等級４であったので、レベル４と判断した。

問題11　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「風を取り込み、熱気を逃がす」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「一方向の開口」とは、当該居室において一つの方位のみに外部に面する開放可能な開口がある場合を指す。

2　「二方向の開口」とは、当該居室において一つの方位に、二つ以上の外部に面する開放可能な開口がある場合を指す。

3　すべての居室において、二方向に開口部があるので、レベル５とした。

4　主要な居室において、一方向開口であるが、通風・排熱を促進する取り組みがなされているため、レベル３とした。

5　欄間を利用して建物内の風の通り道が確保されていたので、通風・排熱を促進する取組みがなされていると判断した。

問題12　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「適切な冷房計画」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　主要な居室において、冷房設備がなくても快適な温熱環境を確保することができると判断され、エアコン専用コンセントが設置されていないため、評価対象外とした。

2　適切な冷房計画であるか否かを判断するために、冷房設備の容量と、冷房設備の設置位置を確認した。

3　主要な居室において、特に配慮がなされていないため、レベル１とした。

4　主寝室において、適切な冷房計画が行われているため、レベル３とした。

5　居間を含む一体的空間と主寝室で、適切な冷房計画が行われているため、レベル５とした。

問題13　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「犯罪に備える」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　長辺が４００ｍｍ、短辺が３００ｍｍの長方形の窓は、侵入の可能な規模の開口部である。

2　ＣＰマーク表示の建物部品を採用したので、侵入防止対策上何らかの措置がとられていると判断した。

3　通常の鍵を２箇所に設置しているため、侵入防止対策上何らかの措置がとられていると判断した。

4　住戸の出入口のみに侵入防止対策上有効な措置がとられているので、レベル１とした。

5　日本住宅性能表示基準「１０－１　開口部の侵入防止対策」の評価基準に基づいて評価している。

問題14　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「静かさ」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　室内における静かさの確保を、屋外から侵入する騒音などに対する遮音性能により評価する。

2　評価対象は、居室の外壁に取り付けられているサッシ及びドアセットの中で平均的な性能のものとする。

3　サッシの遮音等級はメーカに問い合わせて確認した。

4　全てのサッシが日本住宅性能表示基準「８－４透過損失等級（外壁開口部）」の等級１で、ドアセットが等級２なので、レベル３とした。

5　全てのドアセットが日本住宅性能表示基準「８－４透過損失等級（外壁開口部）」の等級３で、サッシが等級２なので、レベル４とした。

問題15　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存における「適切な換気計画」の評価について、最も不適当なものはどれか。

1　一般的な換気性能を有した上で、台所、便所、浴室で発生する汚染物質が換気等によって適切に処理されているので、レベル３とした。

2　建築基準法第２８条第２項から第４項の換気の条件を満たしていないため、レベル１とした。

3　２００３年の建築基準法改正よりも前に建設されているが、一般的な換気性能を有していることが確認できたため、レベル２とした。

4　現況と整合している換気設計に関する設計図書を確認した結果、レベル３を満たした上で、必要な換気量が居室単位ですべての居室について確保できているため、レベル５とした。

5　既存住宅の換気性能は、換気設備の仕様に加え、維持管理や経年変化による劣化状況等に基づき評価しなければならない。

＜Q_H2 長く使い続ける＞

問題16　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「長寿命に対する基本性能」の「躯体」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 採点基準は、日本住宅性能表示基準「３－１劣化対策等級（構造躯体等）」に準拠する。

2 建築基準法に定める対策が講じられているため、レベル３とした。

3 おおむね５０年まで大規模な改修を必要としない対策が講じられているため、レベル４とした。

4 おおむね７５年まで大規模な改修を必要としない対策が講じられているため、レベル５とした。

5 木造住宅で、劣化対策等級（構造躯体等）３を満たしているが、床下空間の高さが３０ｃｍと低いため、レベル４とした。

問題17　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「長寿命に関する基本性能」の「外壁材」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 採点基準は、センチュリーハウジング認定基準「構法（維持管理のしやすさ）」に準拠する。

2 複数種類の外壁材を採用している場合は、面積の占めている割合が大きな外壁材にて評価を行う。

3 耐用年数は、マニュアルに掲載されている「外壁材の耐用年数一覧」にのみ基づいて判断する。

4 サイディングボードを引掛け式の金物で固定しているので、レベル４と評価した。

5 評価対象は外壁基材とし、目地防水および塗装については、適切にメンテナンスされることを前提として評価の対象外とする。

問題18　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「長寿命に対する基本性能」の「屋根材」の評価について、下記の仕様の場合のレベルとして正しいものはどれか。

（※仕様
・一部架台を介して設置されたバルコニーを有する勾配屋根。
・屋根は全面カラーステンレス板(平葺)とし、防水はアスファルトルーフィングとする。
・屋根材の交換に対する特段の配慮はなされていない。）

1 レベル１

2 レベル２

3 レベル３

4 レベル４

5 レベル５

問題19　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「維持管理」の「維持管理のしやすさ」の評価について、下記の仕様の場合のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様
・専用配管において、維持管理を行うための基本的な措置が講じられている。
・給湯ヘッダー方式を採用している。
・電気・ガス併用住宅。
・電気幹線の設計容量は５，５００ＶＡ。
・延べ面積は１００ｍ^2。

1　レベル１

2　レベル２

3　レベル３

4　レベル４

5　レベル５

＜Q_H3 まちなみ・生態系を豊かにする＞

問題20　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「まちなみ・景観への配慮」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 住宅本体の配置が近隣の住宅の配置から突出していたが、「取組み２」の②と③を行っていたためレベル３として評価した。

2 「取組み１」を行った上、庭のつくり方や植栽の樹種、配置の工夫によって良好な景観形成に寄与し、かつ、接道部において通りを演出する工夫を行っていたため、レベル５として評価した。

3 伝統的な様式の町屋や建造物が多い地域において、住宅本体の配置や高さ・屋根形状について場所に応じた工夫が行われていたため、「取組み２」の②として評価した。

4 屋外に設置された室外機を木製ルーバーで囲むことにより、建物のデザインと調和し、目立たなくなっていたため、「取組み２」の⑤として評価した。

5 対象敷地周辺では大規模な宅地造成が行われているため、未だまちなみが形成されていないと判断し、「取組み２」により評価した。

問題21　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「敷地内の緑化」の評価について、下記の仕様のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様
・敷地面積：２２０ｍ^2、建築面積：８０ｍ^2
・指定建ぺい率：５０％
・地被植物や低木の緑地面積：２０ｍ^2
・植栽時３ｍの樹木：５本

1 レベル１

2 レベル２

3 レベル３

4 レベル４

5 レベル５

問題22　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「生物の生息環境の確保」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 庭の大半を池とすることにより、野鳥の水場の確保だけでなく、多くの生き物の生息環境の形成に配慮していたため、レベル３として評価した。

2 野鳥等の餌場や隠れ場となるような、樹高４ｍ前後の花や実をつける３種類の高木を、分散させて敷地内に配していたため、レベル３として評価した。

3 周辺地域との親和性を高めるために設置した厚さ０．５ｍの生垣が、野鳥の住処や隠れ場になると考え、レベル３として評価した。

4 庭や外構に自然石の石積みを多用し、小さな生き物の生息・生育空間を作り出していたため、レベル３として評価した。

5 敷地内において、全く緑化をしていなかったが、水場と多孔質な空間を確保していたため、レベル３として評価した。

問題23　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「地域の資源の活用と住文化の継承」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 地域の資源の活用と住文化の継承に関する取組みを、全く行っていなくても、評価対象外にはならない。

2 敷地内に立っていた古くからの街道松の巨木を保全すると共に、同じく敷地内に残っていた江戸時代の道祖神を祭るほこらを保存したため、レベル５として評価した。

3 地域の山林から産出される木材資源を、住宅の構造躯体に使用すると共に、内外装材や外構資材としても使用したため、レベル５として評価した。

4 地域で育まれてきた住宅、庭造りの技法、デザインを踏襲したため、レベル４として評価した。

5 地場産の瓦を屋根材に採用したため、レベル４として評価した。

＜LR_H1　エネルギーと水を大切に使う＞

問題24　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「自然エネルギー利用」の評価について、以下の条件のレベルとして正しいものはどれか。

※条件
【日射熱の利用】に関する条件
　ＳＴＥＰ１の日射熱利用の条件は満たしており、
「は地域」、「立地１」、「方位２」、「手法１」に該当する。
【自然風の利用】はないものとする。

1　レベル１

2　レベル２

3　レベル３

4　レベル４

5　レベル５

問題25　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「暖房設備」「冷房設備」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　評価対象設備は、居間を含む一体的空間における主たる暖房設備、冷房設備である。

2　「主たる暖房設備」として燃焼式半密閉型ストーブを採用している場合、レベル３である。

3　トップランナー基準の対象ではない「冷房設備」は、カタログ等で機器効率を確認し、冷房機能がほぼ同等であるトップランナー基準対象機器の目標基準値を目安に評価する。

4　ルームエアコンは、省エネ性の高い機器であるほどＣＯＰの値が大きい。

5　「冷房設備」の評価において、統一省エネラベルの多段階評価が４つ星のルームエアコンを用いる場合は、レベル４である。

問題26　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「給湯機器」「浴槽の断熱」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「浴槽の断熱」の評価において、断熱タイプの浴槽が１階に設置されており、基礎断熱を施した場合は、レベル５である。

2　「浴槽の断熱」の評価において、２箇所以上の浴室を有する場合は、断熱性能が最も低い浴室で評価する。

3　「給湯機器」の評価では、給湯機器によるエネルギー消費量の削減対策を評価する。

4　「給湯機器」の評価において、家庭用コージェネレーションシステムを採用しており、$LR_H1.2.5.1$でレベル４の場合は、レベル３である。

5　「給湯機器」の評価において、太陽熱利用による給湯システムを採用する場合は、レベル５である。

問題27　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「照明・家電・厨房機器」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 採点表による採点が５点の場合、レベル４である。

2 電気冷蔵庫が多段階評価４つ星、ガスこんろが省エネ基準達成率１０５％であれば、これらの採点の合計は３点である。

3 旧式の機器で、最新の省エネ達成率で判断できない場合は、原則０点となる。

4 和室は使用頻度が低いが、この部屋の主照明にＬＥＤ照明を採用したため、照明器具の採点を２点とした。

5 テレビを２台保有し、どちらも多段階評価で４つ星を達成している場合、テレビの採点は１点である。

問題28　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「換気設備」の評価について、下記の仕様のレベルとして正しいものはどれか。

（※仕様
・システム消費電力７５Ｗの換気システム。
・年間を通じて常時稼動している（年間システム稼動率＝1）。
・建物の気積は２８０ｍ^3、気積に対する換気回数は０．５回/ｈとする。）

1 レベル５

2 レベル４

3 レベル３

4 レベル２

5 レベル１

問題29　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「家庭用コージェネレーションシステム」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 家庭用コージェネレーションシステムの評価は、取り組みがなくともレベル３である。

2 コージェネレーションシステムは、オンサイトで発電し、発電に伴う排熱を給湯や暖房に利用するシステムである。

3 コージェネレーションシステムの省エネ効果が十分に発揮されることを判断する上では、居住時の電力・熱の需要と、システムによる発電・排熱利用のマッチングが主たる指標となる。

4 燃料電池式コージェネレーションシステムと全館空調方式を導入しており、照明設備、 常時換気設備を備え、カラーテレビ、 温水便座、 電子レンジ、 冷蔵庫、 洗濯機を各一台設置する場合は、レベル５である。

5 ガスエンジン式コージェネレーションシステムにおいてレベル５となるには、電力負荷と熱負荷の確認事項に対し、双方の条件を必ず満たす必要がある。

問題30　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「水の節約」「維持管理と運用の工夫」に関する評価項目について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「節水型設備」の評価において、節水型便器を２台設置し、台所用および浴室用水栓に「節湯ＡＢ」の節湯型機器を採用した場合は、レベル５である。

2　「雨水の利用」の評価において、７００リットルの雨水タンクを設置し、雨水を雑用水に利用するとともに、その一部を水質浄化して水洗便所の補給水に利用することで、上水使用量を半減させた場合、レベル５である。

3　「住まい方の提示」の評価において、各設備の取扱説明書を住まい手に手渡し、機器の一般的な使い方を説明した場合は、レベル４である。

4　「エネルギーの管理と制御」の評価では、特別な取り組みがなくとも、レベル３である。

5　「エネルギーの管理と制御」の評価において、消費エネルギー表示機器が設置され、電力消費の状況に応じて、２台のルームエアコンを一括停止する制御機能を採用した場合、レベル５である。

＜LR_H2　資源を大切に使いゴミを減らす＞

問題31　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築の「資源を大切に使いゴミを減らす」における語句の説明で、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　「リサイクル」とは、「循環型社会形成推進基本法」に従い、循環資源の全部または一部を原材料として「再生利用」することをいう。

2　「リサイクル材」とは、リサイクルされた材料またはそれらを使用した部材、およびグリーン購入法で指定された資材を言い、前者についてはリサイクルの量的な評価を考慮する。

3　「再生可能材料」とは、持続可能な森林から産出された木材もしくは、利用可能になるまで期間の短い植物由来の自然素材をいう。

4　「リサイクル可能な材料」とは、リサイクルの比較的容易なアルミ、鉄、銅をいう。

5　「リユース」とは、「循環型社会形成推進基本法」に従い、循環資源を製品としてそのまま、あるいはその全部又は一部を部品その他製品の一部として「再使用」することをいう。

問題32　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用」で、外装材の過半に既存建築のリユース材を使用した住宅の「外装材」の評価について、下記の仕様のレベルとして正しいものはどれか。

※仕様
- 屋根葺材　　：瓦桟に木粉混入樹脂建材を一部使用
- 屋根下地材　：再生木質ボードを一部使用
- 外壁材　　：リサイクル材を使用しない
- 外壁下地材　：再生木質ボードを一部使用
- 断熱材　　：グラスウールを全面に使用

1　レベル１

2　レベル２

3　レベル３

4　レベル４

5　レベル５

問題33　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「生産・施工段階における廃棄物削減」に関する評価について、次の記述のうちレベル５とならないものはどれか。

1　「生産段階（構造躯体用部材）」の評価において、生産工場がＩＳＯ１４００１認証を取得している。

2　「生産段階（構造躯体用部材）」の評価において、生産工場がゼロエミッションを達成している。

3　「生産段階（構造躯体用部材）」の評価において、工場における構造躯体用部材の加工工程が無く、施工現場で定尺物からロスの少ない部材取りを行っている。

4　「生産段階（構造躯体用以外の部材）」の評価において、生産工場がＩＳＯ１４００１認証を取得している建材を３つ採用している。

5　「施工段階」の評価において、施工現場のゼロエミッションを達成している。

問題34　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「リサイクルの促進」の評価について、以下の場合のレベルとして正しいものはどれか。

（住まい手に対して、住宅に使用されている材料のリサイクルや廃棄に関する情報提供はなされていないが、これらの材料を特定できるメーカー、製品名、型番等の情報提供が行われている。）

1　レベル１

2　レベル２

3　レベル３

4　レベル４

5　レベル５

問題35　ＣＡＳＢＥＥ戸建-既存における「省資源、廃棄物抑制に役立つ材料の採用」の「構造躯体」「木質系住宅」の評価について、次の記述のうち正しいものはどれか。

1　評価対象とする構造躯体には、基礎構造も含む。

2　「持続可能な森林から産出された木材」の使用割合は、構造躯体に占める重量の割合で判断する。

3　「森林認証制度およびＣｏＣ認証制度を活用する方法」によって合法性、持続可能性が証明された木材を過半に使用しているため、評価を２レベル上げた。

4　日本国内から産出された針葉樹材を構造躯体の全てに使用しているので、レベル５とした。

5　建築後８０年経過しているので、レベル４とした。

＜LR_H3　地球・地域・周辺環境に配慮する＞

問題36　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「地球温暖化への配慮」の評価について、評価対象建物のライフサイクルCO_2の排出率が、一般的な住宅（参照値）に対して１３０％となった場合のレベルとして、次の記述のうち最も近いものはどれか。

1　レベル０．６

2　レベル１．０

3　レベル１．４

4　レベル１．８

5　レベル２．４

問題37　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「地域インフラの負荷抑制」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　外構部において、植栽地や透水性舗装などの雨水浸透が可能な面積を６割程度確保したため、「取組み１」として評価した。

2　地下水位が高いために計画的な雨水排水処理が必要な地域で、浸透ますを設置したため、「取組み２」として評価した。

3　雨樋を通して屋根への降雨を溜める雨水貯溜タンクを設置したため、「取組み３」として評価した。

4　敷地内に防臭、防虫等に配慮した堆肥化設備を設置し、家庭菜園の堆肥などに使用できるようにしたため、「取組み４」として評価した。

5　下水道が整備された地区であるが、浄化槽を設置し、汚水処理負荷を低減させる対策をしたため、「取組み６」として評価した。

問題38　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「既存の自然環境の保全」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1　既存の自然環境や自然資源の保全に一部配慮はしたものの、ポイントがわずか１点だったため、レベル３として評価した。

2　緩やかな自然斜面であった従前の地形を改変せずに概ね保全し、従前の表土もそのまま残し、さらに従前から自生していた低・中木を保全したため、レベル５として評価した。

3　敷地に従前から自生していた樹高１０ｍの巨木を保全したため、レベル３として評価した。

4　敷地に緑が全くなかったため、中・低木から高木まで新植したが、いずれも地域の自生種としたため、レベル４として評価した。

5　「取組み１」から「取組み４」までの全てを実施したため、ポイントが６点となり、レベル５として評価した。

問題39　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「騒音・振動・排気・排熱の低減」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 エアコン室外機について、騒音値が敷地境界部で４５ｄＢ(A)以下で、防振のための適切な施工が行われていれば、「取組み１」を行っているとみなせる。

2 排気・排熱の発生源について、隣接する建物の開口部から離れた位置に設置していれば、一般的な配慮をしたとみなせる。

3 隣接する敷地にまだ住宅が建っていないため、設備機器と隣接敷地の建物開口部や植栽との位置関係が未確定の場合でも、評価対象外にはならない。

4 生活騒音や悪臭などの近隣への影響は、本項目の評価対象から除外する。

5 全ての屋外設置の設備機器の騒音・振動、排気・排熱の発生源に対して、一般的な配慮をした上で、エアコン室外機について「取組み１」と「取組み２」を行ったため、レベル４として評価した。

問題40　ＣＡＳＢＥＥ戸建-新築における「周辺温熱環境の改善」の評価について、次の記述のうち最も不適当なものはどれか。

1 卓越風向に対する建築物の見付面積が３０m^2、卓越風向に直交する最大敷地幅×住宅の最高高さが６０m^2であったため、「取組み１」として評価した。

2 芝生や樹木等の緑化面積に、保水性舗装面積を足した面積の、敷地面積に対する割合が３０％であったため、「取組み２」として評価した。

3 舗装面積のうち、夏期に直達日射が当たらない部分と保水性の高い部分を除いた面積の、敷地面積に対する割合が３０％であったため、「取組み３」の①として評価した。

4 日射反射率の高い舗装材の舗装面積の、敷地面積に対する割合が、１５％であったため、「取組み３」の②として評価した。

5 屋根面積の５０％を日射反射率の高い塗料で仕上げていたため、「取組み４」の①として評価した。

平成26年度前期 （第14回） CASBEE戸建評価員試験(2010版)　正解値

問題番号	正解値	配点
1	4	1
2	4	1
3	5	1
4	4	1
5	3	1
6	4	1
7	1	1
8	1	1
9	3	1
10	4	1
11	2	1
12	4	1
13	2	1
14	2	1
15	5	1
16	5	1
17	3	1
18	4	1
19	4	1
20	3	1
21	5	1
22	3	1
23	2	1
24	1	1
25	5	1
26	2	1
27	4	1
28	2	1
29	4	1
30	3	1
31	2	1
32	5	1
33	3	1
34	5	1
35	4	1
36	2	1
37	2	1
38	2	1
39	1	1
40	3	1

満点	40点
配点	1問各1点